

研究 紀要

平成26年度

尾道市教育研究指定校
(コミュニティ・スクール)

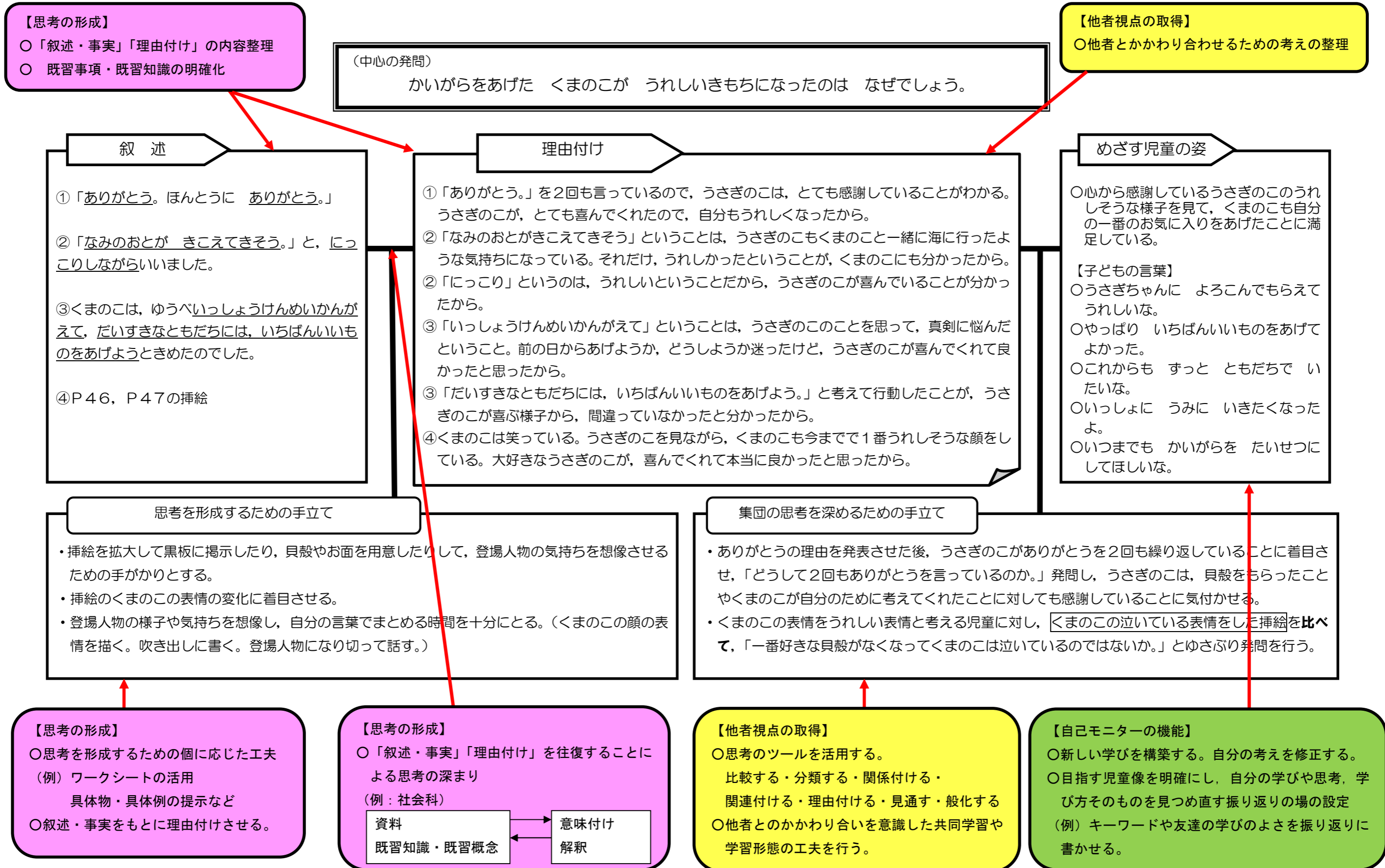
研究主題

思考力・表現力を高める子どもの育成
—思考の形成・他者視点の取得・自己モニターの機能を関連付けた授業づくりを通して—



尾道市立土堂小学校

○「思考の形成」「他者視点の取得」「自己モニターの機能」を関連付けた土堂小シンキングマップ

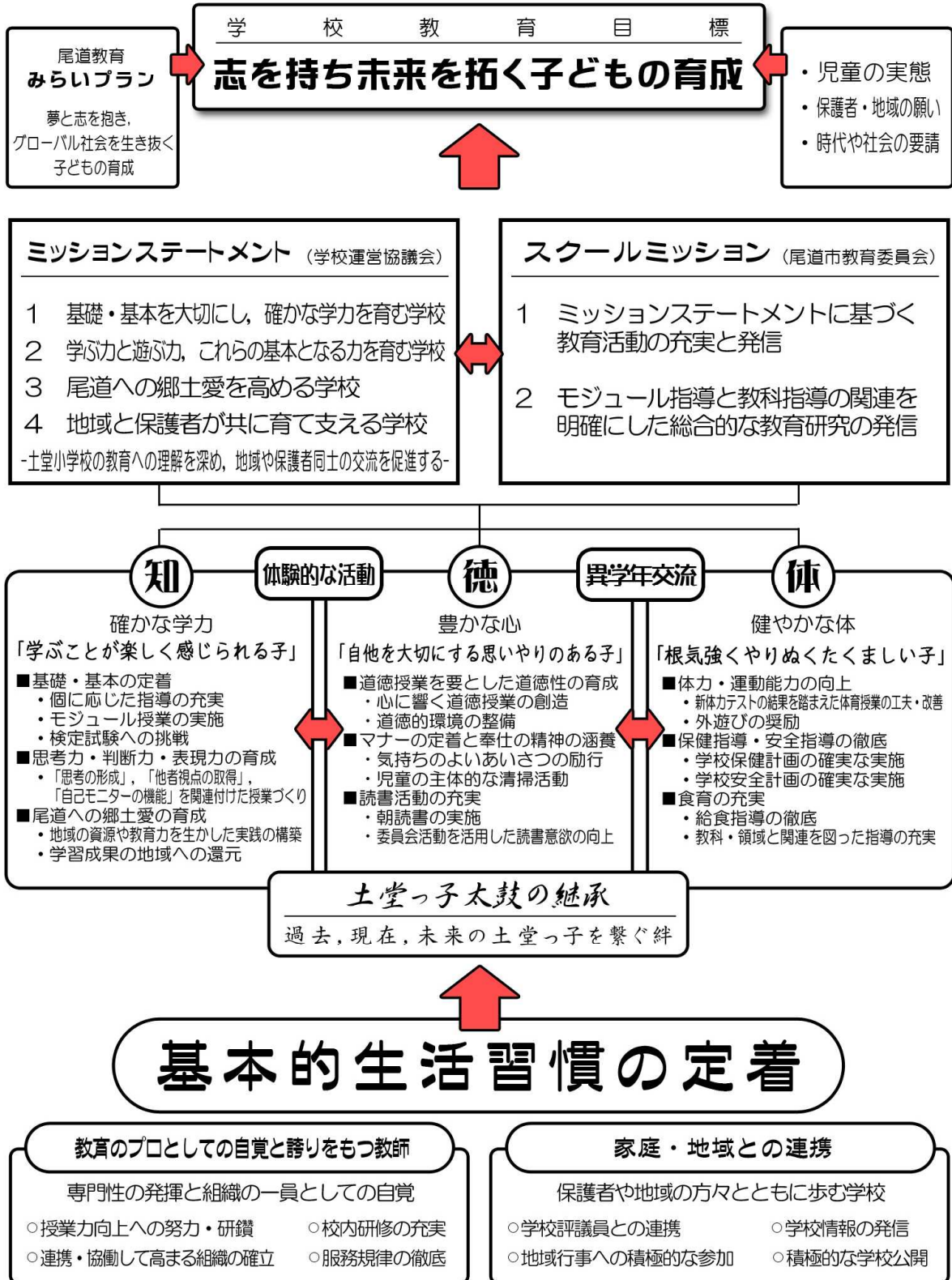


目 次

I	平成 26 年度土堂小学校スクールプラン	1
II	教育研究計画	2
1	研究構想	
2	研究の概要	
(1)	研究主題	
(2)	研究仮説	
(3)	研究主題設定の理由	
(4)	研究のねらい	
(5)	研究内容（研究の方向）	
(6)	検証の指標	
3	指導・助言者	
4	研究計画	
III	具体的な取組	8
1	国語科	
2	社会科	
3	算数科	
IV	基礎・基本定着のための取組	14
1	モジュール授業の原理	
2	モジュール授業の内容	
3	モジュール学年系統表	
V	研究の結果と考察	17
1	意欲	
2	学力検査	
3	思考の形成	
4	他者視点の取得 自己モニターの機能	
VI	研究のまとめ	22
1	成果と課題	
2	今後に向けて	
○	平成 26 年度 ご指導頂いた先生方・研究同人	

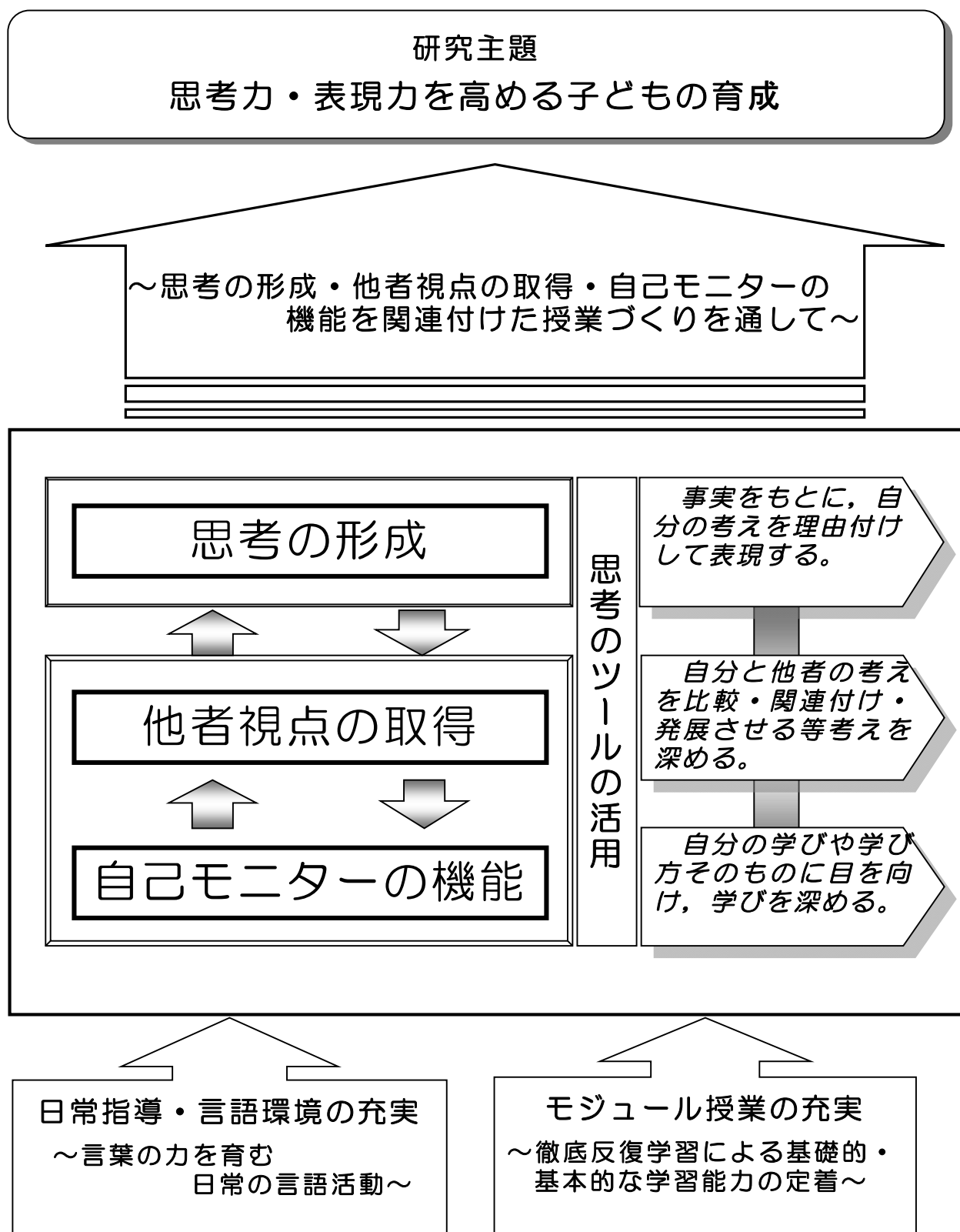
I 平成26年度 土堂小学校スクールプラン

平成26年度 土堂小学校スクールプラン



Ⅱ 教育研究計画

1 研究構想



2 研究の概要

(1) 研究主題

思考力・表現力を高める子どもの育成
～思考の形成・他者視点の取得・自己モニターの機能を関連付けた授業づくりを通して～

(2) 研究仮説

国語科・社会科・算数科において、単元における付けたい力を明確にし、「思考の形成」「他者視点の取得」「自己モニターの機能」を関連付けた授業づくりを行えば、児童の思考力・表現力が高まるであろう。

(3) 研究主題の設定理由

21世紀はグローバル化が一層進み、多様な価値観、自分とは異なる文化や習慣に根付いた人々と、正解のない課題や経験したことのない課題を解決していかなければならない「多文化共生」の時代へと向かっていく。このような時代を生きる子ども達は、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考したり、協力・協働したりしながら課題を解決することで、新たな価値を生み出し、社会に貢献していくことがより一層求められていく。

そのため、一人一人が他者の考えや意見を受容したり、尊重したりしながら、よりよい考えや価値を生み出していくための思考力・判断力・表現力を育てていく必要がある。つまり、一人一人の「自分とは異なる他者を認識し、理解する」「他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考する」「他者との協調、協働を図りながら思考を深めていく」といった能力を高めていく必要があると考える。

本校では、昨年度より、思考力・表現力を高めるため、『思考の形成』『他者視点の取得』『自己モニターの機能』を関連付けるためのシンキングマップを活用した授業づくりを行い、児童一人一人が事実をもとに課題に対する理由付けをもとに考えを比較・分類・関連付け、児童の思考を深めていく授業の創造に努めてきた。これにより、児童は他者とかかわり合いながら学ぶことの楽しさを味わうとともに、他者の発言を聞き、自分なりの考えや意見を述べる姿が増えてきた。また、モジュール授業などで、学習を支える基礎的・基本的な言語の力などを高めることができた。

しかし、児童の実態として、『平成25年度基礎・基本定着状況調査』の結果では、活用問題に課題があること」「理由付けの仕方が事実を抜き出すことに止まっていたり根拠を挙げられなかったりする児童もおり、自分の考えを表現することに個人差があること」や「必要な条件を考えながら筋道を立てて考えたことを表現することに抵抗を感じている児童もいること」が課題として挙げられる。これらは、指導者が、児童の思考力・表現力を高めるため、「複数の情報や事実をもとにして、それらを比較・分類・関連付けたり、発展させたりして学びを深める授業を行うことができていないこと」や「他者の意見を手がかりにして学びを深めていく喜びや充実感を十分に味わっていないこと」などが挙げられ、授業改善を図る必要がある。

そこで、単元において付けたい力を明確にし、誤答分析をもとに評価問題（活用問題を中心）を作成し、教材分析に基づいた単元計画を行う。また、「思考の形成」「他者視点の取得」「自己モニターの機能」の三つの柱を関連付けた授業づくりを行えば、児童の思考力・判断力・表現力が高められると考える。

(4) 研究のねらい

「思考の形成」「他者視点の取得」「自己モニターの機能」を関連付けた授業づくりを通して、思考力・表現力を育成する。

- 単元において付けたい力を明確にし、評価問題(活用問題を中心)を作成し、教材分析を基にした単元計画を行う。
- 「思考の形成」をするために、「事実」「めざす児童の姿」「理由付け」を整理し、自分の考えを表現させる。
- 「他者視点の取得」をするため、他者とのかかわり合いを意識した共同学習や学習形態の工夫を行う。また、思考のツールを活用し、他者との考えの違いや共通点、よさに気付かせるため、比較・分類・関係付け等を行う。
- 「自己モニターの機能」を行うため、自分の行動や思考方法そのものを自分で反省・振り返り・修正する場面の工夫を行い、メタ認知を高める。
- 基礎的・基本的な力を付けたり、意欲を高めるためのモジュール授業の工夫を行う。

(5) 研究内容(研究の方向)

- 単元において付けたい力を明確にし、単元における評価問題(活用問題中心)を作成し、教材分析を基に単元計画を作成し、「思考の形成」「他者視点の取得」「自己モニターの機能」を関連付けた授業づくりを行う。

視点	概要	方法
思考の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・「叙述・事実」をもとに自分の考えを理由付け、表現する。 ・「既習事項・既習知識」をもとに自分の考えを整理し、理由付け、表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「叙述・事実」「理由付け」の内容整理を行う。 ②「既習事項・既習知識」の明確化を行う。 ③思考を形成するための個に応じた工夫を行う。 (例) ワークシートの活用 具体物・具体例の提示 問題提示の工夫など
他者視点の取得	<ul style="list-style-type: none"> ・観察したり推測したり他者の気持ち・考え・立場を推し量る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①思考のツールを活用する。 (例) 比較する 分類する 関係付ける 関連付ける 理由付ける 見通す 般化する ②他者とのかかわり合いを意識した共同学習や学習形態の工夫を行う。 (例) ペアで話し合う グループで話し合う
自己モニターの機能	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学びや学び方を修正したり、自分の学びの成長を実感したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①目指す児童像を明確にし、自分の学びや思考、学び方そのものを見つめ直し、振り返りの場の設定を行う。 (例) キーワード、友達の学びのよさを振り返りに書く。

(6) 検証の指標

	検証の指標及び方法		達成目標
意欲	○「授業の内容がよく分かる」と考える児童の割合 ○「自分で考えたり，表現したりすることは楽しい」と答える児童の割合 ○「友達と学ぶことは楽しい」と考える児童の割合	○児童アンケート及び観察	・肯定的評価 80%以上
学力検査	○ 広島県「基礎・基本」定着状況調査 ○ 全国学力・学習状況調査	○学力テスト分析	・学校平均通過率県平均通過率より+10以上
	○ 総合学力テスト (3学期実施)		・平成26年度平均正答率85%以上
思考の形成	○自力で考えたり表現したりできる児童の割合		・自力で考えたり表現したりできる児童の割合 84%以上
他者視点の取得	○他者との考えの違いや共通点，及びそのよさに気付いた児童の割合	○評価問題による見取り ○ノートによる見取り ○学習前後の記述分析	・他者との考えの違いや共通点，及びそのよさに気付いたりした児童の割合82%以上
自己モニターの機能	○自分の学びや学び方を修正したり，自分の学びの成長を実感したりした児童の割合		・自分の学びや学び方を修正したり，自分の学びの成長を実感したりした児童 84%以上

3 指導・助言者

氏名	所属・職名等	備考
林 武広	広島大学大学院教育学研究科・教授	
木村 博一	広島大学大学院教育学研究科・教授	
河野 智文	福岡教育大学国語教育講座・教授	
岩田 耕司	福岡教育大学数学教育講座・准教授	
住田 孝正	東部教育事務所教育指導課・指導主事	
本安 公範	尾道市教育委員会教育指導課・指導主事	
村上 大樹	尾道特別支援学校・教諭	
鬼木 智子	尾道特別支援学校しまなみ分校・教諭	

4 研修計画

	日	研修内容	講師
4	3日(木)	研究構想・モジュール授業・学力テストについて	
	16日(水)	学力定着状況調査	
	22日(火)	全国学力・学習状況調査	
5	2日(金)	研究推進委員会	
	8日(木)	授業研究(モジュール)	
		事前研究(算数科)	
	9日(金)	授業研究(モジュール) モジュール授業について	
	14日(水)	授業研究(算数科 中村・楨田・石津)	住田孝正指導主事(東部教育事務所)
27日(火)	事前研究(国語科)	本安公範指導主事(尾道市教育委員会)	
6	3日(火)	授業研究(国語科 多久和・松田)	
	10日(火)	「基礎・基本」定着状況調査	
	16日(月)	授業研究(国語科 島本・川本)	河野智文教授(福岡教育大)
	19日(木)	授業研究(算数科 隆杉)	住田孝正指導主事(東部教育事務所)
	25日(水)	児童質問紙(1回目)	
	30日(月)	授業研究(算数科 森口・隆杉)	岩田耕司准教授(福岡教育大)
	4日(金)	授業研究(社会科 舛上・才谷)	木村博一教授(広島大学大学院)
	8日(火)	授業研究(算数科 石倉)	村上大樹先生(尾道特別支援学校)
	22日(火)	研究推進委員会	
	23日(水)	モジュール授業研修 「基礎・基本」定着状況調査分析	
25日(金)	「山・海・島」研修		
8	4日(月)	「基礎・基本」定着状況調査, 全国学力・学習状況調査 の分析結果交流及び取組の指針の検討	
	7日(木)	研究会指導案検討	
	8日(金)	研究会指導案検討	河野智文教授(福岡教育大)
	20日(水)	研究会指導案検討(ブロック研)	
	21日(木)	研究会指導案検討(ブロック研) 道徳地域公開指導案検討	木村博一教授(広島大学大学院)
	22日(金)	研究会指導案検討(ブロック研)	本安公範指導主事(尾道市教育委員会)
	25日(月)	モジュール授業研修(教材交流) 基礎学力向上の取組について	
29日(金)	研究会指導案検討(ブロック研)	岩田耕司准教授(福岡教育大)	
9	29日(月)	評価問題実施	
10	1日(水)	研究の成果と課題の分析	
	8日(水)	研究の成果と課題の報告及び研究会に向けて	
	29日(水)	地域公開準備	
11	10日(月)	教育研究発表会	林 武広教授(広島大学大学院) 木村博一教授(広島大学大学院) 河野智文教授(福岡教育大学) 岩田耕司准教授(福岡教育大学) 鬼木智子教諭(尾道特別支援学校しまなみ分校) 神原雅彦指導主事(尾道市教育委員会)
	21日(金)	教育研究会反省	

12	3日(水)	ブロック研修(中間報告)	
	10日(水)	児童質問紙(2回目)	
1	8日(木)	総合学力テスト 「基礎・基本」定着状況調査結果報告	
	28日(水)	授業研究(算数科 石津)	
2	4日(水)	ブロック研修	
	12日(木)	研究の成果と課題の分析	
	18日(水)	本年度研究の成果と課題の報告	
	25日(水)	次年度土堂小教育作成	
3	5日(水)	次年度土堂小教育作成	
	12日(水)	次年度研究構想	

Ⅲ 具体的な取組

<国語科>

第1学年 単元名「くまのこになって話そう」 学習材「かいがら」東京書籍

本時の目標 一番お気に入りの貝殻をあげた時のくまのこの気持ちを想像し、話すことができる。

思考の形成

くまのこの行動や会話文に焦点を当て、挿絵の動物の表情、様子など関係付けて、くまのこの気持ちを想像させる。



他者視点の取得・自己モニターの機能

貝殻をもらったうさぎのこだけでなく、貝殻をあげたくまのこも、うれしい気持ちになったのはなぜかについて話し合う。



児童の姿

うさぎちゃんによるこんでもらえて、うれしいな。やっぱり、1番いいものをあげてよかったな。



本時の学習範囲には、くまのこに関する叙述がないが、「くまのこがお話しているところがないよ。くまさんの気持ちは分からないね。」と発問することで、挿絵のくまのこの表情やうさぎのこの会話文に着目させた。また、教師が「くまさんは1番好きなかいがらをあげたら、悲しくなるよね。」という児童にない視点を示すことにより、児童の思考をゆさぶり、くまのこの気持ちを想像させた。

第2学年 単元名「音読劇をしよう」 学習材「お手紙」 東京書籍

本時の目標 お手紙の内容を知り、幸せな気持ちに変わる二人の様子や気持ちを想像しながら読むことができる。

思考の形成

がまくんとかえるくんの会話を中心に、出来事の事柄の順序や様子に関連付けて、想像を広げながら音読させる。



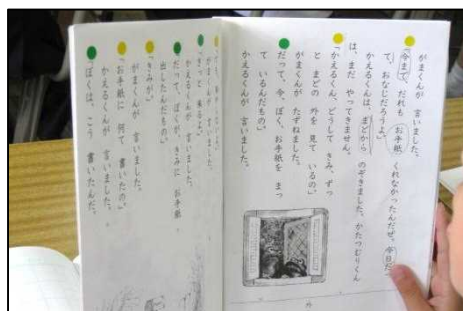
他者視点の取得・自己モニターの機能

ペアでがまくんとかえるくんの台詞の音読の仕方について、理由を述べて話し合う。



児童の姿

かえるくんががまくんのことを親友だと思ってきていたことがわかったから、間を空けて、しみじみと読みます。



単元を貫く言語活動として音読劇を設定し、会話文に着目したワークシートを準備した。教科書には緑色と黄色の丸シールを会話文の上に貼らせ、場面を把握しやすくした。音読ブックには声の大きさや速さなど、どのように読むか書かせた。また、ワークシートにはなぜそのように読むのか登場人物の気持ちと関連付けながら理由を書かせた。

第3学年 単元名「民話ワールドツアーへ出かけよう！」 学習材「木かげにごろり」東京書籍

本時の目標 登場人物の会話文や行動が表れている叙述に着目して「木かげにごろり」のおもしろさを見付けることを通して、登場人物の行動や気持ちの変化を読み取ることができる。

思考の形成

児童がおもしろいと感じた叙述とその理由をガイドブックに書き抜かせる。友達の意見について、これまで見付けてきた「繰り返しの展開」や「登場人物の行動」のおもしろさの視点に分類させる。理由付けの際には、「前は…だったのに、ここでは…だから。」等、前の場面と比べている発言を取り上げ、登場人物の行動や気持ちの変化を読み取らせ、おもしろさを見付けさせる。

他者視点の取得・自己モニターの機能

おもしろいと感じた叙述は同じでも、理由が異なる児童の発言から、一人一人の感じ方に違いがあることに気付く。

児童の姿

今日は、登場人物の行動や気持ちの変化のおもしろさを見付けました。私が選んだ「さんねん峠」では、最初はふるえていたおじいさんが、最後は歌って喜ぶおじいさんになっているところが、地主が変わったところと似ていると思いました。



単元を貫く言語活動を民話ガイドブック作りとして、教科書教材で学んだ民話のおもしろさの視点について、毎時間、児童が選んだ民話に読みを活かした。本時では、登場人物の最初と最後の登場人物の会話文や行動の叙述を比較することで、行動や気持ちの変化のおもしろさを見付けることができた。

第5学年 単元名「物語を紹介するリーフレットを作ろう」

学習材「世界でいちばんやかましい音」東京書籍

本時の目標 「設定」部分と「結末」部分を比べ、登場人物の心情の変化を読み取ることを通して、主題を読み取ることができる。

思考の形成

なぜ王子様や町は変わったのかと問うことで、この物語の主題を考えさせる。これまでにリーフレットにまとめた人物像や物語の構成を振り返りながら、「設定」部分と「結末」部分を比較して変化の理由を叙述から読み取らせる。

他者視点の取得・自己モニターの機能

叙述をもとに変化の理由を話し合う。立札の言葉の違いを考えたり、友達の意見と自分の意見を比べながら聞いたりすることで考えを深める。

児童の姿

王子様の変化によって町の人や町全体が変わっていることが、「設定」と「結末」を比べることでよくわかりました。友達の発表を聞いて、単におもしろい話とだけ思っていたけれど、この物語が平和や静けさの良さを伝えていたのだと気付くことができました。



単元を貫く言語活動をリーフレット作りとして、リーフレットに登場人物、あらすじ、物語の構造分析、主題を書かせた。本時では、物語の設定と結末を比べながら物語が「何が変わったか」「どのように変わったか」「何によって変わったか」などの発問を通して児童の思考を深めた。

<社会科>

第5学年 単元名「いきな日本の水産業」

本時の目標 消費者のニーズに合わせたエビの養殖の工夫や努力について考えることができる。

思考の形成

バナメイエビ（ベトナム）と車エビ（生名島）の養殖の仕方についてまとめた表を提示し、それぞれの育て方を比較させる。

他者視点の取得・自己モニターの機能

自分たちの生活経験や消費者の視点に焦点化して話し合う。

児童の姿

日本の文化の中で大切な食べ物である車エビを味や安全にこだわって育てるのは、贈り物やおせち料理など、特別な日に消費者においしく食べてもらいたいからだと分かりました。



水産業が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあることが分かることを単元のねらいとした。国内のエビ養殖と海外のエビ養殖の様子を比較することで、それぞれの養殖の仕方の違いに気付かせ、養殖の仕方は消費者のニーズの違いによって変わってくることを考えさせた。

第6学年 単元名「だれもマネできない信長の天下統一」

本時の目標 信長の兵農分離について話し合うことを通して、信長が諸政策を行った理由を兵農分離と諸政策とを関連付けて考え、表現することができる。

思考の形成

信長の行った兵農分離の政策と他の政策を関係付け、政策の意図について考えさせる。

他者視点の取得・自己モニターの機能

兵農分離のメリット・デメリットや他の政策との関係について話し合う。

児童の姿

信長の行った政策はどれも戦いに関係するものだと思います。経済を豊かにすることで、兵農分離を実現したと思いました。



本時では、資料を通して、信長が行った兵農分離は武士がいつでも出陣することができるが、武士の生活を維持するために莫大な費用がかかるということに気付かせた。その後、兵農分離と様々な政策を関連付けて考えさせることで、信長の行った多くの政策が経済力を高めるための政策だったことを考え、表現させた。

<算数科>

第1学年 単元名「どちらがおおいかな」

本時の目標 求差の場面を数図ブロックで操作し、図に表すことができる。

思考の形成

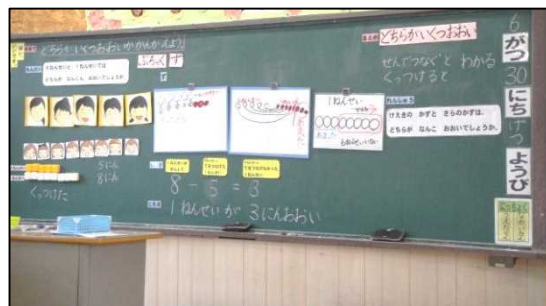
ブロック操作や○図を使って求差の場面について考えさせる。

他者視点の取得・自己モニターの機能

求残や求補と求差を比較し、共通点や相違点について全体で話し合う。

児童の姿

「どちらがいくつおおい」の場面では、同じ数をとる引き算です。線をつないだり、くっつけたりするとよく分かりました。



8 - 5 = 3 (求差)の場面を6年生と1年生でペアを作るお話にして、問題場面を工夫し、二つの数量の差を求める場面がイメージできるようにした。ブロック操作をもとに、○図に線を引かせ、二つの数量を比較して考えたことを説明させた。「どちらがいくつ多い(求差)」の場面では、線でつなげたり、くっつけたりして考えると分かることを児童につかませた。

第2学年 単元名「1000までの数」

本時の目標 買い物の場面や条件を理解し、既習事項を使って問題を解くことができる。

思考の形成

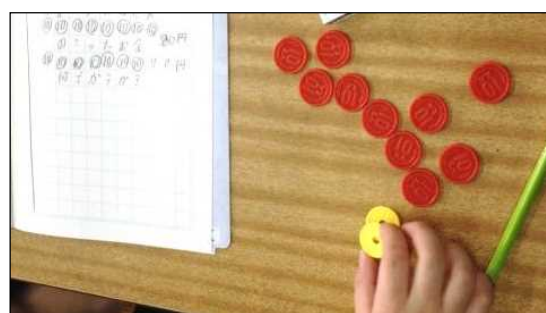
「10がいくつ」や「何十の計算」を使って、操作、図、式で順序立てて考える。

他者視点の取得・自己モニターの機能

友達の式を他の児童が図と関係付けたり、操作を式に表したりして話し合う。

児童の姿

80円のジュースとお菓子の代金を合わせて、150円と同じか150円よりやすい組み合わせを見つければよいことが分かりました。



情報過多の問題を提示し、児童が自分で必要な情報に線を引かせた。また、お金(教材)を使って考えたり、○図などを使って自分の考えをノートに表現したりさせた。お釣りの金額を求めて、何が買えるか表現した児童の考えを紹介することで学びが深まった。

第4学年 単元名「角」

本時の目標 三角定規を組み合わせていろいろな角を作り、組み合わせて作った角の大きさについて、その角度の求め方を考えることができる。

習熟度別指導 基礎

思考の形成

一組の三角定規を組み合わせていろいろな角を作ったり、できた角の大きさの求め方を考えたりさせる。

他者視点の取得・自己モニターの機能

角度の求め方を説明させたり、自分の考えと比べながら友達の意見を聞いたりする。

児童の姿

三角定規を組み合わせることで、いろんな角度をつくることができ、計算で求められることができると分かりました。

三角定規を合わせたときにはたし算を使い、一部を取るときにはひき算を使うことが分かりました。



児童一人一人に紙で作った三角定規を配り、自由に組み合わせる活動を行った。その後、自分たちが組み合わせて作った三角定規の角の求め方を考えさせた。角度の求め方を説明させたり、自分の考えと比べながら友達の意見を聞かせたりすることで、たし算やひき算を使って、角度を求めることができることに気付かせることができた。拡大した三角定規の色を変えたり、教師用の三角定規の周りに黄色いテープを貼ったりすることで視覚的支援を行った。

習熟度別指導 発展

思考の形成

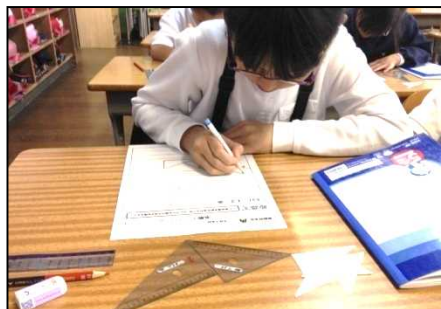
一組の三角定規を組み合わせていろいろな角を作ったり、できた角の大きさの求め方を考えたりさせる。

他者視点の取得・自己モニターの機能

三角定規の組み合わせ方を「並べる」「組み合わせる」、三角定規を組み合わせた角度の求め方を「たし算」「ひき算」「 180° から引く」など、友だちから出てきた考え方や求め方ごとにネーミングしてまとめる。

児童の姿

三角定規を並べたり組み合わせたりすると、いろんな角度をつくることができると分かりました。三角定規を組み合わせると、三角定規の一番小さい角度の 30° より小さい 15° の角度も作れました。また、三角定規を組み合わせてできた角度は、計算で求められることが分かりました。



たくさんの考えを、簡単で見やすく残していけるように児童用に三角定規のシールを準備した。また、児童は意欲的に考えることができるように、ヒントカードを三角定規のシルエットにして、どんな組み合わせになっているかイメージさせて、角度を求める活動を仕組んだ。話し合いでは、角の大きさの求め方は、①たし算②ひき算③ 180° から角を引く、3つの求め方があることを考えることができた。

第6学年 単元名「小数と分数の計算」

本時の目標 小数、分数、整数の混じった乗法や除法の計算は、どちらかにそろえて計算すると、分数にそろえた方が簡単に計算できることを理解することができる。

思考の形成

小数と分数にそろえた計算を比較し、どちらが「いつでも・正確・簡単」に求めることができるか考えさせる。

他者視点の取得・自己モニターの機能

小数と分数の混じった計算をする場合は、どちらにそろえた方が良いのか理由を付けて話し合う。

児童の姿

小数と分数の混じった計算は、小数にそろえると「正確に」「いつでも」ができない場合があるので、分数にそろえて計算する方が良いことが分かりました。



小数及び分数の計算の能力を定着させ、それらを用いる能力を伸ばすことを単元のねらいとした。大小2つのプールの容積を小数に直したり、分数に直したりして計算し、答えを求めさせた。大小2つのプールの問題を解く中で、小数に直すことができない場合があるので、分数に直した方が計算しやすいことをとらえさせた。

たんぼぼ学級 単元名「レストランをひらこう」

本時の目標 レストランごっこを通して、たし算やひき算の筆算をすることができる。

単元の見通しを持たせる



場の設定を工夫する



個に応じた問題を準備する



レストランをひらこう～筆算で正しく計算しよう～という単元を設定し、教室に単元計画を掲示し、児童に見通しを持たせて学習を展開した。繰り上がりの有無、繰り下がり有無など児童に応じて問題を変え、計算したカードをレシートにして活動を行った。メニュー表や食べ物、服装、音楽、役割、台詞など児童の意欲を高めるための指導の手立てを行った。

IV 基礎・基本定着のための取組

モジュール授業

1 モジュール授業の原理

モジュール授業では、児童に「基礎的・基本的な知識・技能」を習得させるための「読み・書き・計算」を中心とした徹底反復学習を行っている。高速で音読したり単純な計算を繰り返したりする徹底反復学習を行うことにより、脳の活性化が図られる。その結果、児童の学習能力が高まると考える。そのため、児童が集中して徹底反復学習に取り組むことができるように「スピード・テンポ・タイミング」をキーワードとして指導の工夫を行っている。スピード感を保ちつつ、テンポ・タイミング良く教材を提示するツールとして、電子黒板等の情報機器を活用している。

2 モジュール授業の内容

モジュール授業は、国語科・算数科・その他の教科等の内容を、それぞれ 15 分間のユニットとして指導している。主な指導内容として、次に示すものがあげられる。

国語科	<p>(音読) 名文やリズムのある作品を音読することで、基礎となる音読する力や読解を助ける力を身に付けさせる。</p> <p>(辞書引き) 語彙能力の向上を図るために、辞書引き月間(9月)を設定して、集中して辞書引きに取り組んでいる。発達段階を考慮し、低学年ではルビ入りの国語辞典を使用している。</p> <p>(漢字の前倒し学習) 漢字習得率の向上を図るため、年度初めに新出漢字を前倒しして指導し、その後、漢字の反復学習を実施する。</p> <p>(聞き取り) 文学的文章や説明的文章等を聞き取り、正しく聞き取る力やメモを取り、聞き取ったことをまとめる力を身に付けさせる。</p>	<p>(フラッシュ)</p> <p>各教科・各学年に応じた内容を練習し、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。また、当該学年だけでなく、前学年までの内容を繰り返し練習にしたり、確認したりすることで定着率を高める。</p> <p>【国語科】 文法、ローマ字、言語事項など</p> <p>【算数科】 計算、図形など</p> <p>【社会科】 地図記号、都道府県、歴史、世界の国々など</p>
算数科	<p>(ます計算) ます計算に取り組むことで、算数科の基礎となる計算力の向上を図る。</p> <p>(そろばん) 低学年において、数感覚を養ったり、数と計算の意味について理解させたりするために、そろばんを指導している。</p>	
その他の教科	<p>(カルタ) 都道府県や歴史など各学年に応じた内容を練習し、教科における基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。</p> <p>(タイピング) 情報機器活用能力向上を図るために、第2学年からタッチタイピングを指導している。</p>	

3 各学年のモジュール教材

児童の実態に応じたモジュール教材の開発を行った。作成した教材を一つのフォルダに集めて共有化し、どの学年の指導者も、当該学年だけでなくその他の学年の内容を確認したり、活用したりできるようにしている。そうすることで、新出した内容だけでなく、既習事項の内容を確認することができたり、計画的・系統的に進めたりすることができると思う。

【1年】

	国語的内容		算数的内容	
	音読	フラッシュ教材等	計算	フラッシュ教材等
2学期	<ul style="list-style-type: none"> お口の体操 五十音 早口ことば 放浪記 わたしと小鳥とすずと 	<ul style="list-style-type: none"> 日付 月 数え方(量詞) カタカナ 漢字 十二支 辞書引き ことわざ 	<ul style="list-style-type: none"> たし算マス計算(繰り下がりなし) ひき算マス計算(繰り下がりなし) 	<ul style="list-style-type: none"> 数字 2とび, 5とび, 10とび いくつといくつ さくらんぼ計算・時計 そろばん 10より大きなかず
3学期	<ul style="list-style-type: none"> 尋胡隠君 竹取物語 		<ul style="list-style-type: none"> たし算100マス(繰り下がりあり) ひき算100マス(繰り下がりあり) 	<ul style="list-style-type: none"> 大きなかず

【2年】

	国語的内容		算数的内容	
	音読	フラッシュ教材等	計算	フラッシュ教材等
1学期	<ul style="list-style-type: none"> お口の体操 五十音 早口言葉 竹取物語 坊っちゃん 放浪記 尋胡隠君 春暁 	<ul style="list-style-type: none"> カタカナで書くことば 漢字の筆順 組み合わせたことば 仲間になることば ことわざ 	<ul style="list-style-type: none"> 筆算(たし算・ひき算) たし算100マス ひき算100マス 	<ul style="list-style-type: none"> 1000までの数(大きさ比べ, 全部で何円, (何十)±(何十)) 時間と時刻 長さ(単位換算)
2学期		<ul style="list-style-type: none"> 百人一首 反対の意味のことば 	<ul style="list-style-type: none"> 穴あき九九 九九100マス 	<ul style="list-style-type: none"> かさ(dL, L, mL) かけ算
3学期	<ul style="list-style-type: none"> 吾輩は猫である 	<ul style="list-style-type: none"> 送り仮名 主語, 述語 		<ul style="list-style-type: none"> 三角形と四角形 一万の数 分数

【3年】

	国語的内容		算数的内容		社会・理科的内容	
	音読	フラッシュ教材等	計算	フラッシュ教材等	プリント等	フラッシュ教材
1学期	<ul style="list-style-type: none"> 五十音 早口言葉 坊っちゃん 尋胡隠君 放浪記 吾輩は猫である 	<ul style="list-style-type: none"> 全漢字 リズム漢字 ローマ字 部首 慣用句 	<ul style="list-style-type: none"> 100ますかけ算 3桁のたし算筆算 3桁のひき算筆算 1桁×2桁のかけ算 	<ul style="list-style-type: none"> 単位選択 時間と時刻 	<ul style="list-style-type: none"> 社会 地図記号 四方位 八方位 	<ul style="list-style-type: none"> 社会 地図記号 四方位 八方位 理科 昆虫の体のつくり
2学期	<ul style="list-style-type: none"> 蜘蛛の糸 	<ul style="list-style-type: none"> こそあど言葉 百人一首 	<ul style="list-style-type: none"> あまりのないわり算 あまりのあるわり算 	<ul style="list-style-type: none"> 一億までの数 数のしくみ 円と球 三角形 	<ul style="list-style-type: none"> 社会 都道府県 	<ul style="list-style-type: none"> 社会 都道府県 理科 太陽の動き
3学期	<ul style="list-style-type: none"> 将に東遊せんとし壁に題す 	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字プリント 	<ul style="list-style-type: none"> 2桁×2桁のかけ算 	<ul style="list-style-type: none"> 分数 重さ 		<ul style="list-style-type: none"> 理科 磁石

【4年】

	国語的内容		算数的内容		社会・理科的内容	
	音読	フラッシュ教材等	計算	フラッシュ教材等	プリント等	フラッシュ教材
1学期	<ul style="list-style-type: none"> 五十音 早口言葉 雨ニモマケズ 放浪記 枕草子 徒然草 	<ul style="list-style-type: none"> 全漢字 リズム漢字 ローマ字 漢字の音と訓の読み方 部首 故事成語 	<ul style="list-style-type: none"> わり算 あまりのあるわり算 1桁2桁でわるわり算筆算 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな数 位取り 角 図形の定義 	<ul style="list-style-type: none"> 社会 都道府県 県庁所在地 	<ul style="list-style-type: none"> 社会 都道府県 県庁所在地 特産物 理科 乾電池のつなぎ方 回路・夏の星
2学期	<ul style="list-style-type: none"> 外郎売り 春望 落葉松 和歌 	<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語、修飾語 	<ul style="list-style-type: none"> 小数のかけ算わり算 2桁のかけ算 	<ul style="list-style-type: none"> がい数 図形の定義 面積の単位換算 	<ul style="list-style-type: none"> 社会 広島県市町村 特産物 	<ul style="list-style-type: none"> 社会 広島県市町村 特産物 理科 冬の星
3学期		<ul style="list-style-type: none"> ローマ字プリント 百人一首 	<ul style="list-style-type: none"> 分数のたし算ひき算 	<ul style="list-style-type: none"> 分数 角 	<ul style="list-style-type: none"> 社会 外国の国旗 外国名 	

【5年】

	国語的内容		算数的内容		社会・理科的内容	
	音読	フラッシュ教材等	計算	フラッシュ教材等	プリント等	フラッシュ教材
1学期	<ul style="list-style-type: none"> 竹取物語 平家物語 雨ニモマケズ 枕草子 学問のすすめ 	<ul style="list-style-type: none"> 全漢字 リズム漢字 ローマ字 文の構成（主語・述語） 	<ul style="list-style-type: none"> 100問わり算 	<ul style="list-style-type: none"> 小数と整数 図形の合同と角 体積 倍数と約数 小数のわり算 	<ul style="list-style-type: none"> 社会 都道府県 世界の国土 日本の国土 都道府県 カルタ 	<ul style="list-style-type: none"> 社会 都道府県 世界の国土 日本の国土 経度、緯度・島 理科 理科用語
2学期	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢物語 方丈記 	<ul style="list-style-type: none"> 俳句 		<ul style="list-style-type: none"> 図形の面積 角・体積 小数のかけ算、わり算 通分 分数の大小比較 		<ul style="list-style-type: none"> 社会 山地、山脈、平野 工業地帯 国旗
3学期		<ul style="list-style-type: none"> 敬語 				

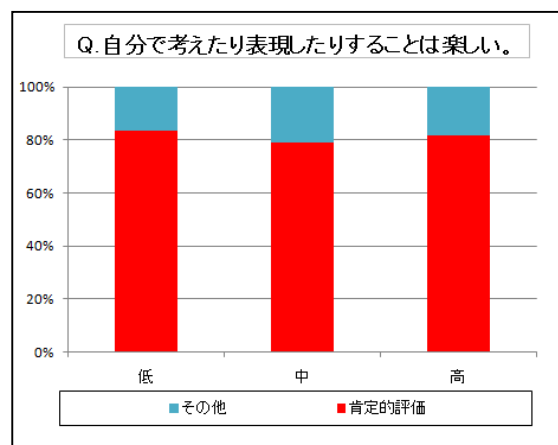
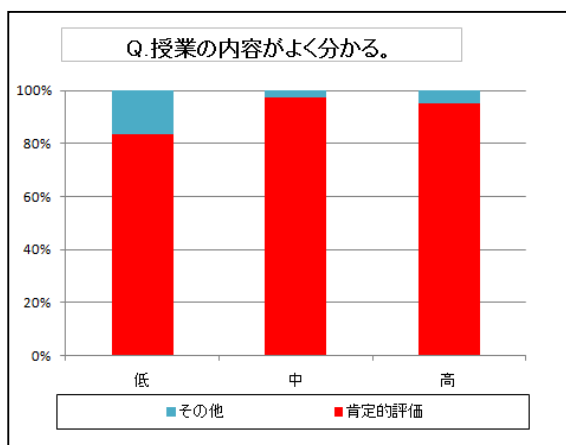
【6年】

	国語的内容		算数的内容		社会・理科的内容	
	音読	フラッシュ教材等	計算	フラッシュ教材	プリント等	フラッシュ教材
1学期	<ul style="list-style-type: none"> 雨ニモマケズ 平家物語 論語 	<ul style="list-style-type: none"> 全漢字 リズム漢字 慣用句・敬語 	<ul style="list-style-type: none"> 100問わり算 通分 約数 分数の計算 小数の計算 Xのある式 	<ul style="list-style-type: none"> 単位換算 対称 立体の体積 図形の面積 逆数・割合 文字と式 	<ul style="list-style-type: none"> 社会 歴史カルタ 	<ul style="list-style-type: none"> 社会 歴史（人物、事件） 国旗・世界遺産 理科 道具・実験用語 体のつくり
2学期	<ul style="list-style-type: none"> 名言（聖徳太子、クラーク） 	<ul style="list-style-type: none"> 和語 漢語 外来語の由来 		<ul style="list-style-type: none"> 速さ 割合 比 比例、反比例 		<ul style="list-style-type: none"> 社会 歴史（戦争～戦後） 日本国憲法 権利と義務 国会、内閣、裁判所の働き
3学期		<ul style="list-style-type: none"> 数え方 		<ul style="list-style-type: none"> 量と単位 		<ul style="list-style-type: none"> 社会 地理（中1教材） 世界の歴史 理科 電気とわたしたちの暮らし

V 研究の結果と考察（中間）

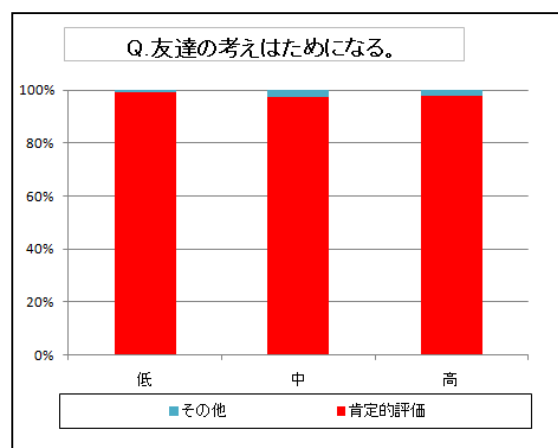
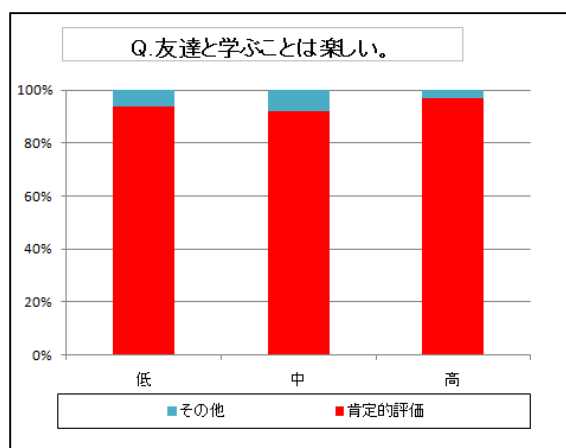
「(6) 検証の指標」をもとに中間検証を行った。

1 意欲（児童アンケート及び観察）



「授業の内容がよく分かる」と肯定的に答えている児童は低学年 83.5%、中学年 97.4%、高学年 94.8%で、目標値 80%を上回る。特に中学年、高学年が高いのは、今年度から取り組んでいる算数科での習熟度別指導の効果が大きいと考えられる。

「自分で考えたり、表現したりすることは楽しい」と答えている児童は低学年 83.5%、中学年 79.2%、高学年 81.6%で、低学年、高学年で目標値 80%を上回る。概ね目標値を達成している。



「友達と学ぶことは楽しい」と肯定的に答えている児童は低学年 93.8%、中学年 94.8%、高学年 96.9%で、目標値 80%を大幅に上回る。

「友達の考えはためになる」と肯定的に答えている児童は低学年 98.9%、中学年 97.4%、高学年 97.9%である。他者との学びを肯定的にとらえる児童は、目標値 82%を大きく上回る。他者視点の取得や自己モニターの機能を関連付けた授業づくりによって、他の児童の考えに有用性を感じる児童が多く、その結果、友達との学びを楽しく感じる児童が多いと考える。

2 学力検査

(1) 「広島県「基礎・基本」定着状況調査(通過率) —第5学年—

教科全体の通過率(国語科) (%)

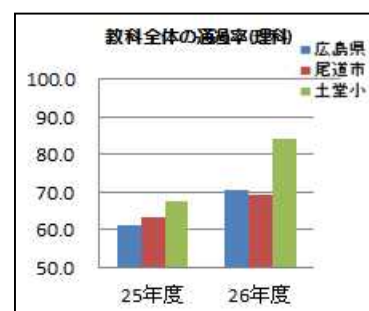
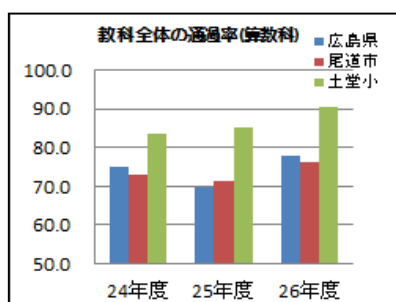
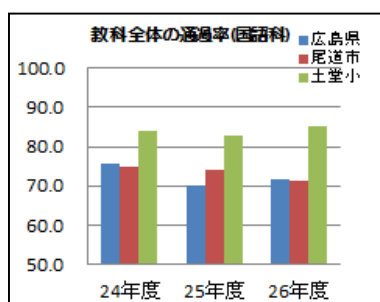
	24年度	25年度	26年度
広島県	75.8	70.1	71.8
尾道市	74.9	73.9	71.2
土堂小	83.9	82.6	85.1
県との差	+8.1	+12.5	+13.3

教科全体の通過率(算数科) (%)

	24年度	25年度	26年度
広島県	75.0	69.8	78.0
尾道市	73.2	71.5	76.1
土堂小	83.4	85.3	90.7
県との差	+8.4	+15.5	+12.7

教科全体の通過率(理科) (%)

	25年度	26年度
広島県	61.3	70.6
尾道市	63.3	69.2
土堂小	67.6	84.2
県との差	+6.3	+13.6

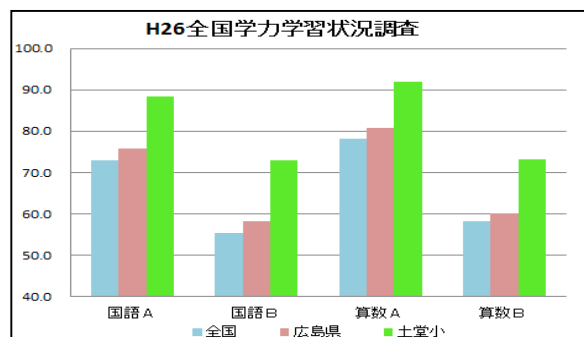
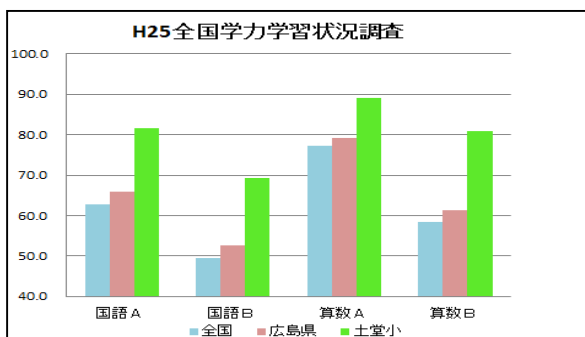


国語科, 算数科, 理科のいずれも 12.7 ポイント以上平均を上回り, 目標値+10 を達成している。課題として, 国語科では, 中心となる語や文をとらえて文章を正しく読むこと, 算数科では, およそ 500 cm³の広さのものを理解することなど量と測定に関すること, 理科では, 半月の1日の動き方を方位と関連付けて考えること, 正午の太陽の位置から, できるかげの位置を考えることなど地球に関することなどが挙げられる。

(2) 全国学力・学習状況調査(通過率) —第6学年—

	25年度			
	国語A	国語B	算数A	算数B
全国	62.7	49.4	77.2	58.4
広島県	65.8	52.7	79.2	61.3
土堂小	81.6	69.4	89.1	80.8
全国との差	+18.9	+20.0	+11.9	+22.4

	26年度			
	国語A	国語B	算数A	算数B
全国	72.9	55.5	78.1	58.2
広島県	75.9	58.3	80.7	60.1
土堂小	88.3	72.9	91.9	73.1
全国との差	+15.4	+17.4	+13.8	+14.9



国語A, 国語B, 算数A, 算数Bのいずれも 13.8 ポイント以上平均を上回り, 目標値+10 を達成している。課題として, 国語科では, 示された条件に合わせて書くこと, 算数科では, 示された情報を基に考えたことを説明することなどが挙げられる。

(3) 無答率の比較

①「基礎・基本」定着状況調査における無答の多かった問題の無答率の比較

教科	内容【領域】	本校	県
国語	目的に応じた引用【読むこと・書くこと】	0.0%	6.2%
算数	自分の考えや解決方法を筋道立てて説明【数と計算・数量関係】	0.0%	6.5%
理科	ゴムの力による物の動く様子の違い【エネルギー】	2.2%	7.4%

②全国学力・学習状況調査における無答の多かった問題の無答率の比較

教科	内容【領域】	本校	全国
国語A	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】	0.0%	7.2%
国語B	二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く。【書くこと】【読むこと】	5.8%	26.0%
算数A	単体量当たりの大きさの求め方を理解している。【量と測定】	0.0%	3.4%
算数B	示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる。【数と計算】【数量関係】	1.9%	13.1%

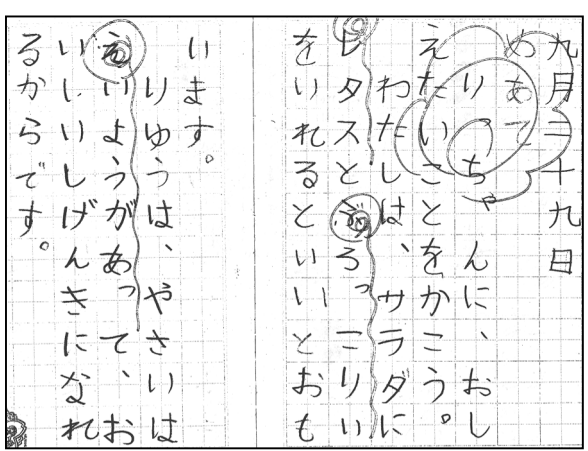
「基礎・基本」定着状況調査や全国学力・学習状況調査の無答率を比較すると、県や全国の平均に比べて、本校の無答率が低いことが分かる。これらの結果から、自力で考えたり表現したりする力や理由付けをして考えを深める力が育っていると考えられる。

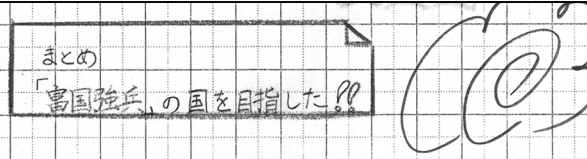
3 思考の形成

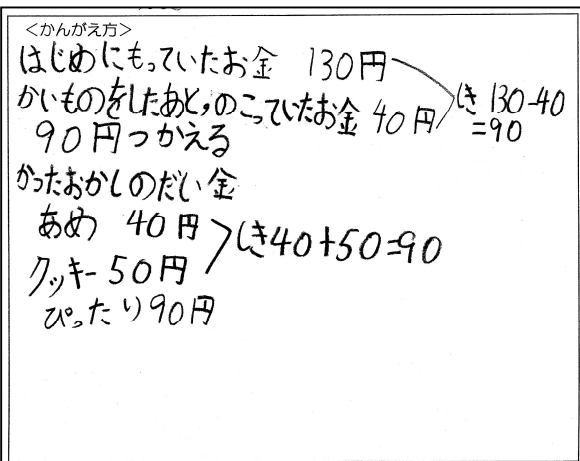
【自分で考えたり、表現したりできる児童の割合及び記述分析】

1年	2年	3年	4年	5年	6年
88%	91%	95%	79%	97%	86%

【評価問題】

<p>第1学年 国語科「サラダでげんき」</p> <p>【評価問題】 サラダに入れるといいものを、りっちゃんに教えてあげる手紙を書こう。</p> <p>【評価基準】 サラダに入れるものとそれを食べるとどうなるかを考えて、手紙を書くことができる。</p> <p>【分析】 りっちゃんのサラダに入れた物が、いずれもお母さんを元気にするための物であったことから、児童は、食べると元気になりそうな物を手紙に書いた。物語全体を読み、考えたことを表現する力が高まっている。</p>	<p>【児童の解答例】</p> 
--	--

<p>第6学年 社会科 「明治の国づくりを進めた人々」</p>	<p>【児童の解答例】</p>
<p>【評価問題】 なぜ明治政府は「富国強兵」の国づくりを進めたのだろう。</p>	
<p>【評価基準】 前時に学習した不平等な条約や欧米諸国との国力の差にふれて理由を書くことができる。</p>	<p>日本は何のために富国強兵の国を目指したのか わたしは、アメリカやヨーロッパ諸国の軍力や資金力に圧倒されて日本は結ばなくなかった不平等な条約を結んだと思います。</p>
<p>【分析】 前時までに学習した黒船来航の様子や不平等な条約の内容と富国強兵の国づくりを進める明治政府のねらいとを結び付けて考え、表現している。既習事項と関連付けて考えたことを表現することのできる児童が増えている。</p>	<p>そして、二度と不平等な条約を結ばまいと、軍力、資金力共に外国に立ちうる「富国強兵」の国を目指したと思います。</p>

<p>第2学年 算数科「1000までの数」</p>	<p>【児童の解答例】</p>
<p>【評価問題】 めぐみさんは、百円玉1まいと十円玉3まいをもってかいものに行きました。(チョコレート60円、ジュース80円、あめ40円、クッキー50円) かいものをしたあと、おさいふに十円玉が4まいのこっていました。めぐみさんは何と何をかいましたか。</p>	
<p>【評価基準】 買った物を正しく選んで説明することができる。</p>	
<p>【分析】 始めに持っていた金額から買い物をした後に残った金額を引いて代金を求め、代金に合った商品を選んでる。式や言葉を使い、考えたことを順序立てて書くことのできる児童が増えている。</p>	<p>こたえ (あめ)と(クッキー)</p>

9月末に全学年で研究教科である国語科、社会科、算数科の評価問題を作成・実施し、記述分析を行った。自力で考えたり、表現したりすることのできる児童の割合は上記の通りで、概ね目標値84%を上回った。4月に教科ごとに児童の課題としていた国語科「物語全体を読み、考えを書くこと」、社会科「既習の知識や概念を使って考えを書くこと」、算数科「図や表、式、言葉を使って考えを書くこと」への改善が図られつつある。

4 他者視点の取得 自己モニター機能

【他者との考えの違いや共通点、及びそのよさに気付いた児童の割合】

3年	4年	5年	6年
84%	100%	80%	92%

三年生 国語 「ゆうすげ村の小さな旅館」

働きの者 ← 他者視点の取得 ← 働きの ← 優しい ← つぼみさん

振返りをさせることで、学びの成長や他者の考えのよさを実感させる。

自分の考えと他者の考えを吟味し、本時のまとめを書く。

人の気持ちを考えられる人

叙述をもとに主人公の人物像について考える。

【自分の学びや学び方を修正したり、自分の学びの成長を実感したりした児童の割合】

1年	2年	3年	4年	5年	6年
89%	90%	100%	92%	93%	100%

一年生 算数 「ひき算」

低学年では、振り返りの観点を選択式で示し、自分の学びや学び方の成長、友達の学び方などについて振り返りを行う。

中学年や高学年では、自分の学びの変化や他者の学びのよさ、次時の学習や生活に生かしたいことなどについて振り返りを行う。

五年生 国語 「注文の多い料理店」

他者との考えの違いや共通点、及びそのよさに気付いた児童の割合は概ね目標値 82%を上回った。また、自分の学びや学び方を修正したり、自分の学びの成長を実感したりした児童の割合は、全学年で目標値 84%を上回った。

VI 研究のまとめ（中間）

1 成果と課題

- ① 思考の形成，他者視点の取得，自己モニターの機能を関連付けた授業づくりの中で，特に他者視点の取得，自己モニターの機能に焦点化して取り組んだ。思考のツールを活用し，複数の情報や事実をもとにして，比較したり，分類したり，関連付けたりして学びを深めさせた。国語科では，物語全体を読み，理由を付けて自分の考えを表現すること，社会科では，既習の知識や概念を使って自分の考えを説明すること，算数科では，図や表，式，言葉などを使って自分の考えを説明することなど，児童の思考力や表現力を高めることができた。しかし，他者視点の取得の場面では，発言が一部の児童に偏り，より多くの児童の意見を引き出し，吟味することは十分ではなかった。
- ② 振り返りが習慣化し，自分の学びの変化や他者の学びのよさに気付き，学んだことを次時の学習や生活に生かしたいという意欲につなげる児童が増えた。また，友達との学びに有用性を感じる児童が増えた。しかし，自分で考えたり表現したりすることへの意欲は十分高まったとは言えない。児童が，主体的に考えたり，表現したりすることのできる授業づくりを行う必要がある。

2 今後に向けて

【課題① 多様な考えを引き出し，吟味するための工夫】

多様な考えを引き出し，吟味させるために，本時や単元のねらいを達成するために必要な既習知識や既習概念，思考の方法について授業者が十分につかみ，授業の様々な場面で，思考のツールを活用した授業づくりを行う。

【課題② 考えたり，表現したりすることへの意欲の向上】

考えたり，表現したりすることへの意欲を向上させるために，単元構成や授業構成を工夫したり，話し合う必然性や考える必然性のある課題を授業者が児童に提示したりする。

平成26年度 ご指導いただいた先生方

広島大学大学院	教育学研究科	教授	林 武広 先生
広島大学大学院	教育学研究科	教授	木村 博一 先生
福岡教育大学	国語教育講座	教授	河野 智文 先生
福岡教育大学	数学教育講座	准教授	岩田 耕司 先生
東部教育事務所		指導主事	住田 孝正 先生
尾道市教育委員会	教育指導課	指導主事	本安 公範 先生
尾道市教育委員会	教育指導課	指導主事	神原 雅彦 先生
尾道特別支援学校		教育相談主任	村上 大樹 先生
尾道特別支援学校しまなみ分校		小中高等部主事	鬼木 智子 先生

平成26年度研究同人

佐々木智彦	中野 智美	土井 尚美	松田 鯉栄
森口 結香	多久和沙矢佳	中村 恵	島本佳代子
槇田 有香	舛上 敏成	川本美紀子	才谷 瑛一
隆杉 佳代	石倉さゆり	石津 誠	前田真由美
寺岡 葉子	福本 英司	高橋 洋子	島田 純子
石田 博子	貝川 充洋	柏原ひとみ	Katie Metcalfe
牟田小百合			